

グアテマラ経済（2010 年 8 月）

平成 22 年 9 月
在グアテマラ日本国大使館

『8 月の主な動き』

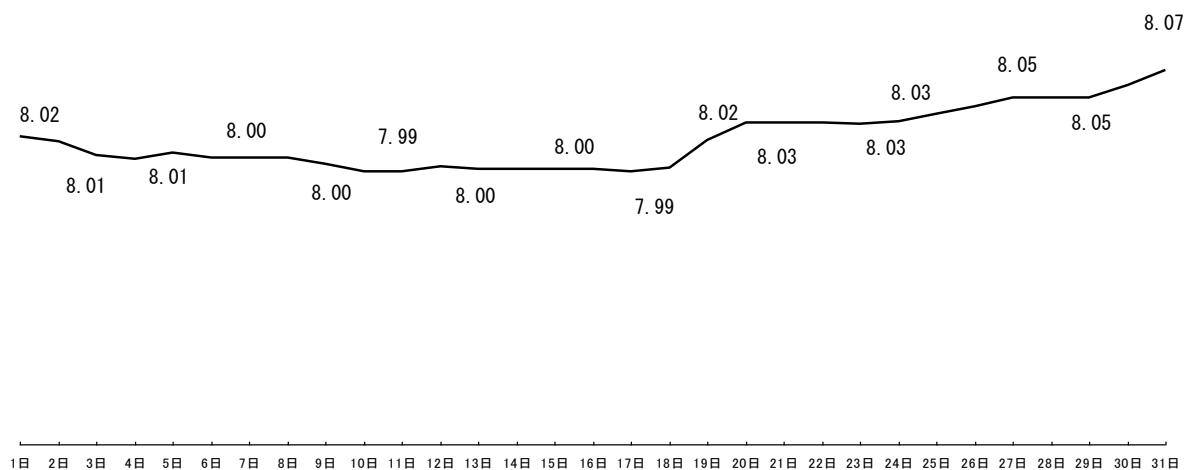
- 8 月、消費者物価指数は、前年同期比で 4.10%上昇となり年率では 8 ヶ月連続して上昇した。
- 8 月、外国からの送金額は、前月に比べ下落したものの、6 ヶ月連続で前年同月額を上回った。
- 12 日、中銀は、本年上半期の輸出入額がそれぞれ前年同期額を上回った旨発表した。
- 26 日、中銀は、本年第 1 四半期の国内総生産（GDP）が、前年同期比 3.2%増となる 482 億 5,820 万ケツアル（約 60 億 3,228 万ドル）に達した旨発表した。
- 27 日、バルセレス財務大臣は、本年 10 月に期限を迎える IMF スタンドバイ合意延長を希望している旨表明した。

1. 主な経済指標

（1） 為替レート（中銀）

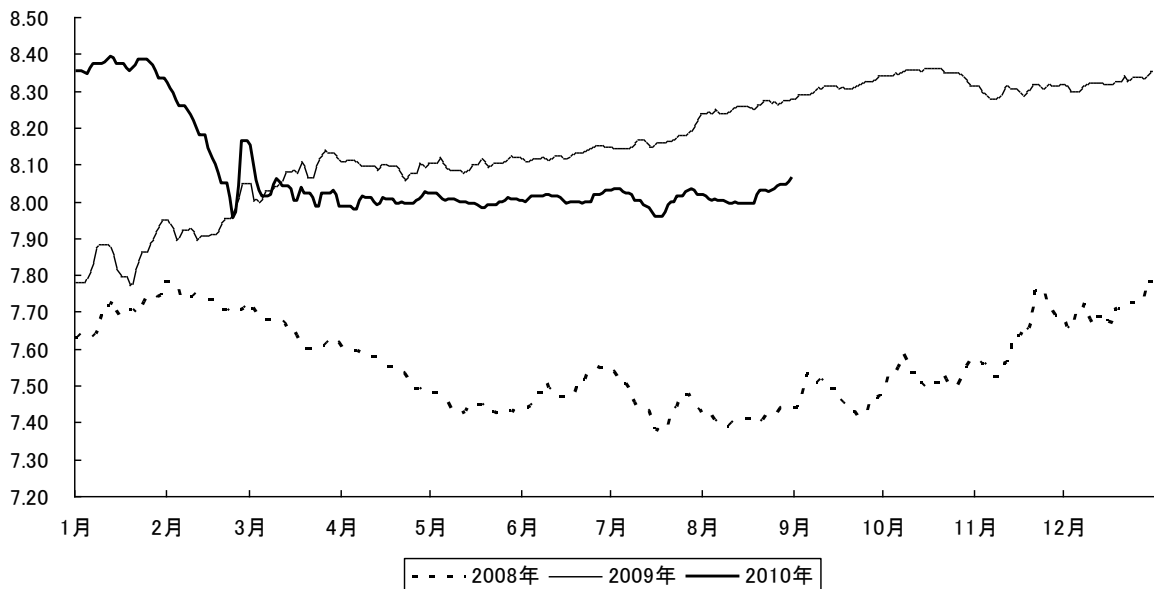
8 月、ケツアルの対米ドル為替相場は 1 ドル=8 ケツアル前後で推移した。8 月 31 日時点の為替レートは同月初頭に比べ 0.05 ケツアル安ドル高の 1 ドル=8.07 ケツアルであった。

ケツアル対ドル相場の推移：2010 年 8 月



（出典：グアテマラ中央銀行）

ケツアル対ドル相場の推移：2008年—2010年

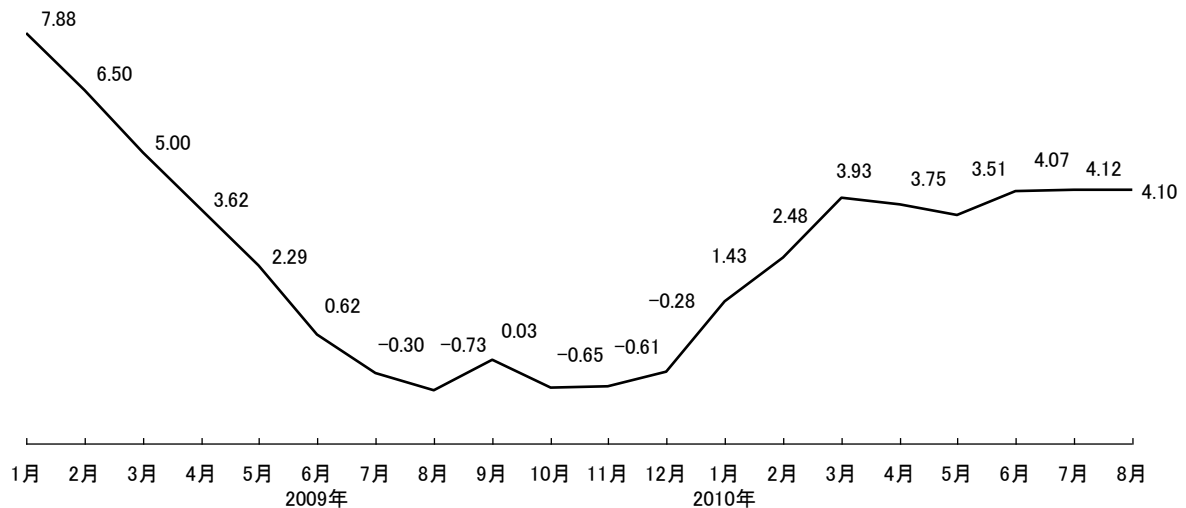


(出典：グアテマラ中央銀行)

(2) 消費者物価指数(中銀及び国立統計院)

8月、消費者物価指数は前月比で0.04%の上昇となった。また、前年同月比では4.10%の上昇となり、年率では上昇は2010年1月以降8ヶ月連続して上昇した。

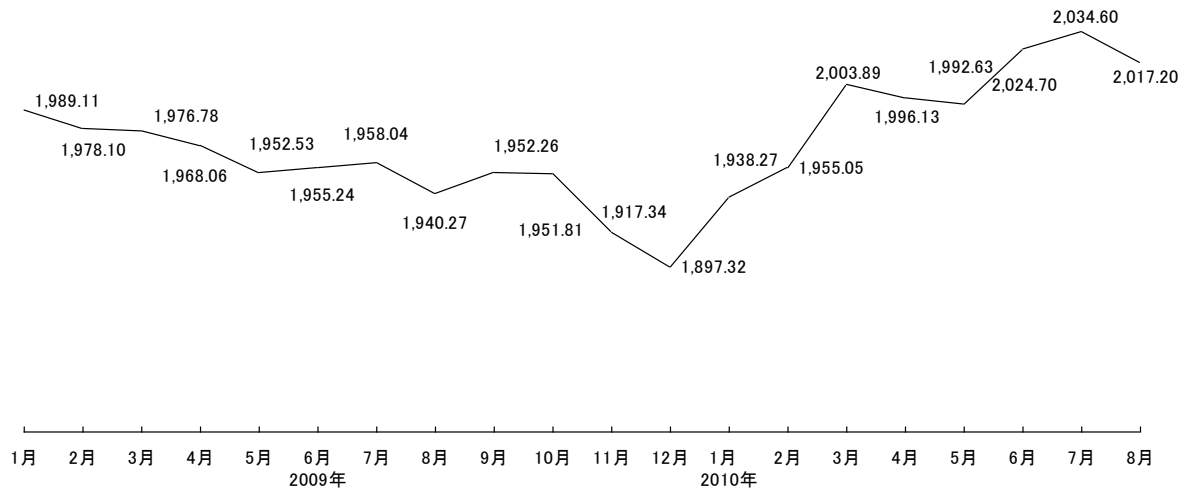
消費者物価変動率(対前年同月比：%)：2009-2010年



(出典：グアテマラ中央銀行及び国立統計院)

基礎的食料品バスケット（Canasta Básica de Alimentos: 1世帯5.38人分のカロリーとタンパク質の摂取を満たす最低限の食料26品目）価格は、前月比17.4ケツアル減の2,017.20ケツアルとなった。

基礎的食糧品バスケット価格：2009-2010年



(出典：国立統計院)

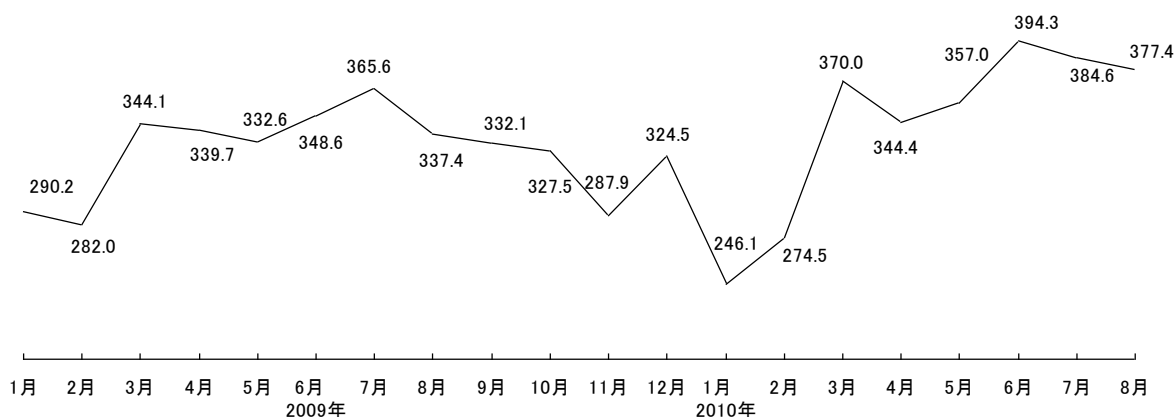
また、基礎的生活バスケット（Canasta Básica Vital: 基礎的食料品バスケットに、生活に不可欠な財と最低限のサービスを加えたもの）の価格も、前月比31.75ケツアル減の3,681.02ケツアル/月となった。

(3) 外国からの送金（中銀）

8月、外国からの送金額は前月に比べ下落したものの、前年同月比11.8%増の3億7,736万ドルとなり、6ヶ月連続で前年同月額を上回った。

外国からの送金額：2009-2010年

（単位：百万米ドル）



（出典：グアテマラ中央銀行）

2. 国内経済トピックス

(1) IMFミッションの当国訪問

(イ) 27日、国際通貨基金（IMF）ミッションはIMFスタンバイ合意に関する最終調査（8月17日から26日）を終え、バルセレス財務大臣に調査結果を報告した。メヒア同ミッション団長は、「熱帯暴風雨アガサ等本年当国が被った自然災害にも関わらず、当国経済は回復基調にある。月別経済活動指数の上昇率が加速していると共に、（本年7月までの）年間インフレ率も4.1%に抑えられている。また、貿易額や外国からの家族送金額も回復しつつある。他方、本年の財政赤字額は2009年と同水準のGDP比3.1%と予測されているものの、本年の自然災害被害の影響により同3.4%に上昇する可能性がある。今後、健全な財務状態を維持するためには、2011年以降財政赤字額を減少させる事が重要である。」旨述べた。

(ロ) 同日、バルセレス財務大臣は本年10月21日に期限を迎えるスタンバイ合意（9億3,500万ドル）に関し、「同合意延長を希望する旨同調査ミッションに伝えた。」等述べた。一方、デルガドIMF当国代表は、スタンバイ合意延長に関し、当国政府関係者から接触があったものの、具体的な交渉はまだ始まっていない旨述べた。当国は、国際通貨基金（IMF）と計4回（1994-1996、2002-2003、2003-2004、2009-2010）スタンバイ合意を結んでいるものの、同クレジットを実際に活用したことはこれまでにない。

(2) 2010年第1四半期の国内総生産

26日、中銀は、本年第1四半期の国内総生産(GDP)が、昨年同期比3.2%増となる482億5,820万ケツアル(約60億3,228万ドル)に達した旨発表した。なお、部門別では、鉱業・採石業及び建設業の各部門ではマイナス、右部門以外についてはプラス成長となった。なお、中銀は、今次発表よりIMFの四半期国民経済計算(Cuentas Nacionales Trimestrales、CNT)を採用した。

(3) 2010年上半期の経済指標

(イ) 13日付エル・ペリオディコ紙は、国税庁が発表した2010年上半期の経済諸指標について報じた。2010年上半期の新車販売台数は7,906台(前年同期比5.5%減)、また、中古車販売台数は33,987台(前年同期比9.75%減)であった。

(ロ) 12日、中銀は、2010年上半期の貿易額を発表した。輸出総額は、前年同期比18%増となる43億6,660万ドル(前年同期比18%増)、同時期の輸入総額は前年同期比21%増65億2,290万ドルであった。

(4) 2010年建設業成長予測

5日付エル・ペリオディコ紙は、2010年の当国建設業の成長率がマイナスとなる見込みである旨報じた。同記事によると、中銀及び政府は、2010年の当国建設業の成長率がそれぞれ7.1%及び10%のマイナス成長になると予測している。また、本年5月の月間建設業活動指数は、2002年以来最低の水準となる64.2(前年同月値81.4)であった。当国建設業会議所のセカイラ氏(統計担当)は、「当国建設業の停滞は、住宅販売の低下及び政府による(請負業者への)支払いの滞りが原因である。政府は(自身の)支払能力を上回る建設工事の契約を結んでいる。」旨述べた。

3. 対外経済トピックス

(1) 中米・カナダ自由貿易協定交渉の再開

3日付エル・ペリオディコ紙は、中断している中米4カ国(グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス及びニカラグア)・カナダ間自由貿易協定交渉が本年9月に再開される予定である旨報じた。トレホ当国経済次官(貿易担当)は、「7月26日の週、エルサルバドルで中米側の会合が行われ、懸念事項の確認及び本件交渉第12回ラウンドの日程について協議された。今後の予定としては、本年9月にカナダ側本件担当者と協議する事が決定された。」旨述べた。なお、中米・カナダ自由貿易協定交渉は2002に開始されたものの、2004年に中断した。同交渉は本年3月に再開されたものの、中米・EU連携協定交渉のため再び中断していたが、本年中の交渉終了が期待されている。

(2) グアテマラ・エクアドル部分的自由貿易協定交渉開始の可能性

7日、コヨイ経済大臣は、政府がエクアドルとの部分的自由貿易協定に向け働き始めている旨述べた。同大臣は、「現在、エクアドル側関係者との本年中の会合を予定しており、2011

年３月までに交渉を終了させる事を目標としている。エクアドルとの部分的自由貿易協定は、当国がベネズエラ、キューバ及びペリリーズと結んでいる（貿易に重点を置いた）協定に近いものとなるであろう。」旨述べた。

（了）